

会長講演

8月1日(土) 13:10 ~ 14:05

第1会場(富士・伊吹)

軽症うつ病

| | | |
|-----|--------|------------------------------|
| 司 会 | 野村 総一郎 | 防衛医科大学校精神科学講座 |
| 演 者 | 久保木 富房 | 東京大学心療内科名誉教授／医療法人秀峰会楽山病院名誉院長 |

特別講演

8月1日(土) 14:05 ~ 15:00

第1会場(富士・伊吹)

体内時計・体内カレンダーと気分障害

| | | |
|-----|-------|--|
| 司 会 | 樋口 輝彦 | 国立精神・神経センター |
| 演 者 | 上田 泰己 | 独立行政法人理化学研究所発生・再生科学総合研究センターシステムバイオロジー研究チーム |

基調講演

7月31日(金) 13:10 ~ 14:05

第1会場(富士・伊吹)

うつ病類型の時代的変遷－軽症うつ病を中心に－

| | | |
|-----|--------|------------------------------|
| 司 会 | 久保木 富房 | 東京大学心療内科名誉教授／医療法人秀峰会楽山病院名誉院長 |
| 演 者 | 広瀬 徹也 | 財団法人神経研究所附属晴和病院 |

招待講演

7月31日(金) 14:05 ~ 15:00

第1会場(富士・伊吹)

The Diagnosis of Mood Disorders-Key Issues in DSM-IV and Prospects for DSM-V

| | | |
|-----|---------------|---------------------------------------|
| 司 会 | 大野 裕 | 慶應義塾大学保健管理センター |
| 演 者 | Allen Frances | Professor Emeritus at Duke University |

教育講演1

7月31日(金) 16:30 ~ 17:25

第1会場(富士・伊吹)

非定型うつ病－打たれ弱い人のうつ病

| | | |
|-----|-------|---------------------|
| 司 会 | 坪井 康次 | 東邦大学心療内科 |
| 演 者 | 貝谷 久宣 | 医療法人和楽会パニック障害研究センター |



教育講演2

8月1日(土) 10:30 ~ 11:25

第2会場(浅間・立山)

自殺予防の取り組み方(メンタルヘルスの立場から)

| | | |
|----|-------|----------------------|
| 司会 | 白川 治 | 近畿大学医学部精神神経科学教室 |
| 演者 | 山本 晴義 | 横浜労災病院勤労者メンタルヘルスセンター |

教育講演3

8月1日(土) 10:30 ~ 11:25

第3会場(大雪・岩木)

うつ病の疫学－調査の方法と結果－

| | | |
|----|-------|-------------------|
| 司会 | 石郷岡 純 | 東京女子医科大学医学部精神医学教室 |
| 演者 | 中根 允文 | 長崎・出島診療所／長崎大学名誉教授 |

シンポジウム I コメディカルのためのうつ病の基礎－十分な連携を図るために－

7月31日(金) 9:00 ~ 11:30

第1会場(富士・伊吹)

| | | |
|---------|--------------------|--------------|
| オーガナイザー | 熊野 宏昭 (兼司会・シンポジスト) | 早稲田大学人間科学学術院 |
| | 鈴木 伸一 (兼シンポジスト) | 早稲田大学人間科学学術院 |

【趣旨・狙い】

大うつ病は、時点有病率が2～3%と非常に頻度が高く、心身両面の多彩な症状を来し、社会生活の障害度も大きい。そのため、精神科医や心療内科医以外にも、様々な診療科や職種が協力しあってその診療に当たることが必要な疾患である。しかし現状では、専門医以外に、うつ病に関する基礎知識が十分に共有されているとは言いがたく、そのことがうつ病診療全体の効率を大きく低下させている。そこで、本シンポジウムでは、特に「十分な連携を図るためにコメディカルに必要な基礎知識」にターゲットを絞り、リエゾン精神医学、心身医学、個人ベースの臨床心理、集団ベースの臨床心理など、多職種の連携を踏まえて活動してきたシンポジストそれぞれの立場から、うつ病理解のためのミニマムエッセンスを提示していただく。

| | | |
|----|-------|-----------------|
| 司会 | 吉田 栄治 | 心療内科・神経科赤坂クリニック |
|----|-------|-----------------|

医師以外も知っている必要があるうつ病の基礎知識

熊野 宏昭 早稲田大学人間科学学術院

うつ病治療における認知行動療法のミニマムエッセンス－導入から他職種との連携まで－

鈴木 伸一 早稲田大学人間科学学術院

操作的診断基準を臨床でより効果的に使用するために：身体疾患患者のうつ病の診療経験から

堀川 直史 埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック

うつ病休職者のための復職支援プログラムの実際

田島 美幸 慶應義塾大学医学部ストレス・マネジメント室／NTT東日本関東病院精神神経科

シンポジウムⅡ 過労自殺：法律家と精神科医の対話

7月31日(金) 9:00～11:30

第2会場(浅間・立山)

オーガナイザー

高橋 祥友
竹島 正防衛医科大学校・防衛医学研究センター／精神保健研究所行動科学研究部門
国立精神・神経センター精神保健研究所

【趣旨・狙い】

1990年代からの長期にわたる不況からようやく脱出したと思われたわが国であるが、2008年秋より世界同時不況に襲われている。そして、働く人々の置かれた状況はますます厳しいものになってきている。シンポジウムでは、過労自殺に関して法律家と精神科医の視点から多角的に取り上げる。日本の自殺の現状、過労自殺とは何か、過労自殺の実態、電通過労自殺裁判における最高裁判決の持つ意味、職場のメンタルヘルスの現状などについて、深く討論していく。過労自殺という言葉がひとり歩きしてしまっている現状を見直して、あらためてこの深刻な問題を取りあげたい。

働く者の自殺予防のためにー職場の過労とハラスメントー

川人 博 川人法律事務所

過労自殺事案から学んだこと

天笠 崇 代々木病院精神科／メンタルクリニックみさと／みさと協立病院精神科

過労自殺の労災認定事件を担当してー過労自殺の労災認定と医師の意見書ー

水野 幹男 水野幹男法律事務所

精神障害の労災認定の基本と動向～特に自殺の業務上外の判断

黒木 宣夫 東邦大学医療センター佐倉病院精神神経医学

過労自殺と企業の安全配慮義務の問題

安西 愈 安西法律事務所

シンポジウムⅢ 身体科からみたうつ病

7月31日(金) 15:00～17:00

第3会場(大雪・岩木)

オーガナイザー

三村 将

昭和大学医学部精神医学教室

【趣旨・狙い】

うつ病とその類縁疾患では、さまざまな身体症状のために種々の身体科を受診していることが多い。本シンポジウムでは、うつ病やメンタルヘルスの問題にも精通している各科医師から、動機・痛み・めまい・更年期障害などといったポピュラーな症状について、各科ではどのようにとらえているか、身体疾患を見逃さないためのコツ、うつ病をどのように見分けているか、精神科医師に希望すること、患者への対応のポイントなどについて、それぞれの立場から述べていただき、ディスカッションしていく。

慢性疼痛の心理的要因とその対応ー整形外科における取り組みー

佐藤 勝彦 財団法人大原総合病院整形外科

循環器疾患に潜むうつ病

宗像 正徳 東北労災病院勤労者予防医療センター相談指導部

更年期障害とその漢方療法を中心に

木村 武彦 牧田総合病院附属健診センター



耳鼻咽喉科におけるうつ病スクリーニングと治療の実際

五島 史行 日野市立病院耳鼻咽喉科

シンポジウムⅣ 社会格差とうつ病

8月1日(土) 9:00 ~ 11:30

第1会場(富士・伊吹)

オーガナイザー

川上 憲人(兼司会) 東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野
中尾 睦宏(兼シンポジスト) 帝京大学医学部衛生学公衆衛生学・心療内科

【趣旨・狙い】

経済状況の急速な悪化、雇用の多様化に伴う賃金の引き下げや派遣切りの嵐、地域医療の崩壊など最近では暗いニュースが多い。こうした厳しい社会状況を背景に、健康診断や保険医療といった健康を支えるための最低限のセーフティネットすら受けられない人が増加し大きな社会問題となっている。広がる社会格差はうつ病やうつ状態にどのような影響を及ぼすのであろうか？本シンポジウムは、「社会格差とうつ病」をテーマとし、この方面で最先端の研究調査を進めている先生方の疫学データを紹介して頂き、うつ病の社会経済的要因について議論を深めていきたい。

司 会

村上 正人 日本大学医学部附属板橋病院心療内科

社会格差とうつ病の頻度、受診行動および経過

川上 憲人 東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野

雇用の多様化とうつ関連症状

中尾 睦宏 帝京大学医学部衛生学公衆衛生学・心療内科

社会格差と自殺

本橋 豊 秋田大学大学院医学系研究科公衆衛生学

高齢者のうつと社会経済的因子：AGESプロジェクト

近藤 克則 日本福祉大学社会福祉学部保健福祉学科

シンポジウムⅤ うつ病の復職支援プログラムの技法と評価の発展

8月1日(土) 15:00 ~ 17:00

第1会場(富士・伊吹)

オーガナイザー

小山 司 北海道大学大学院医学研究科精神医学分野
中村 純 産業医科大学医学部精神医学教室

【趣旨・狙い】

近年、全国の多様な施設においてうつ病の復職支援が拡がりつつあるが、そのプログラムの内容は各施設によって試行錯誤的に行われている段階で、エビデンスにも乏しい。これらを検討する際には、プログラムの効果をどのように評価し、臨床に応用していくのかも重要な課題である。そこで本シンポジウムでは、プログラムの中心的な技法と評価方法についてさらに深め、今後の一定の標準化に向けた議論を展開することを目的とした。

復職支援における集団認知行動療法の適応と工夫

仲本 晴男 沖縄県立総合精神保健福祉センター

うつ病の復職支援における認知機能検査の有用性

北川 信樹 北海道大学大学院医学研究科神経病態学講座精神医学分野

標準化リワーク評価シートの作成

秋山 剛 NTT東日本関東病院精神神経科
 岡崎 渉 NTT東日本関東病院精神神経科

医療機関で実施されるリワークプログラムの現状とその標準化

五十嵐 良雄 うつ病リワーク研究会／医療法人社団雄仁会メディカルケア虎ノ門

シンポジウムⅥ 地域における産業保健活動と自殺対策

8月1日(土) 15:00～17:00

第2会場(浅間・立山)

オーガナイザー

井上 幸紀 大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学
 島 悟 京都文教大学臨床心理学部

【趣旨・狙い】

自殺者数が増加していると言われて10年になる。平成18年に自殺対策基本法も制定されたが自殺者数は一向に減少する気配がない。自殺者数と景気動向は関連しているとも言われ、今後ますます自殺者数が増加することも懸念される。そこでこのシンポジウムでは、地域における産業保健活動と自殺対策に焦点を当て、様々な立場から産業保健活動、自殺や自殺予防対策の現状や課題についてご報告いただき、今後の方向性について討論したい。

産業保健活動と自殺予防

廣 尚典、永田 頌史 産業医科大学産業生態科学研究所精神保健学

精神科臨床医による自殺対策と地域産業保健活動

井上 幸紀 大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

地域精神保健活動と産業保健活動との連携

数川 悟 富山県心の健康センター

職域・地域連携の自殺対策－プライマリケア医の立場から－

北條 稔 大田地域産業保健センター／北條医院



ワークショップ1 うつ病の標準的薬物療法

7月31日(金) 9:00 ~ 11:00

第3会場(大雪・岩木)

コーディネーター 仙波 純一 さいたま市立病院精神科

【趣旨・狙い】

うつ病の治療で薬物療法は重要な位置を占めている。最近、薬物療法についてのガイドラインやアルゴリズムなどが整備されてきており、治療法の標準化が進んでいる。このワークショップでは、重症度ごとにうつ病の標準的な薬物療法を紹介し、さらに副作用の視点から薬物使用の注意点、高齢者・妊産婦・身体疾患合併患者など特別な配慮の必要な患者に対する薬物療法を解説する。

軽症うつ病の標準的薬物療法

本橋 伸高 山梨大学大学院医学工学総合研究部精神神経医学

重症うつ病の標準的薬物療法

大嶋 明彦 北里大学医学部精神科学

副作用から見た抗うつ薬の上手な使用法

尾鷲 登志美 昭和大学藤が丘病院精神神経科

特別な配慮が必要なうつ病患者への薬物療法

仙波 純一 さいたま市立病院精神科

◇参考書籍:「気分障害の薬物治療アルゴリズム」(精神科薬物療法研究会/じほう/3,675円)

ワークショップ2 うつ病デイケアにおける認知行動療法(CBT)の実践 -集団CBT技法とグループワークの進め方-

7月31日(金) 9:00 ~ 11:00

第4会場(大山)

コーディネーター 仲本 晴男 沖縄県立総合精神保健福祉センター

【趣旨・狙い】

うつ病に特化した、認知行動療法を中心としたデイケアを実施している国内の3施設から実践報告をしてもらい、具体的な実施方法や有効性、問題点や課題などを報告する。そのことによってワークショップの参加者が、それぞれの医療施設でうつ病デイケアを実施する際のノウハウを学んでいただく。

うつ病デイケアにおけるCBTの概要とファシリテーターの役割

仲本 晴男 沖縄県立総合精神保健福祉センター

CBTを取り入れたリワークプログラムの実践 -精神科病院における集団CBT-

江藤 和美 くまもと清明病院

集団CBTを含むうつ病デイケアについて -精神保健福祉センターにおける実践-

白尾 直子 広島県立総合精神保健福祉センター

うつ病集団CBTの実際

宮良 廣子、仲本 晴男 沖縄県立総合精神保健福祉センター

ワークショップ3

三次救急施設で救命された自殺企図患者のその後の心身ケアについて—うつ病患者の自殺企図を中心に—

8月1日(土) 8:30～10:30

第2会場(浅間・立山)

コーディネーター

上條 吉人
山田 朋樹北里大学医学部救命救急医学
横浜市立大学附属市民総合医療センター・精神医療センター

【趣旨・狙い】

自殺企図で救命救急センターに搬送されて救命された患者に対して、身体科医と連携した精神科医による精神状態の評価および治療的介入、看護師やケースワーカーによる患者および家族の援助などによって、退院までどう危機介入していくのか？さらに、身体科医と連携した精神科医による患者のトリアージおよびケースワーカーの援助などによってどのように退院後の医療につなげて行くのかという視点で討論したい。

自殺企図～救命救急センター専属の精神科医の立場から

井出 文子 北里大学医学部救命救急医学

自殺未遂者への対応～リエゾン精神科医の立場から～

池下 克実 奈良県立医科大学精神医学講座

看護師の立場から

守村 洋 札幌市立大学看護学部精神看護学領域

ソーシャルワーカーの立場から

山田 素朋子 横浜市立大学医学部精神医学教室

ワークショップ4

「心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援の手引き」の改訂を踏まえて、職場復帰支援のあり方を考える

8月1日(土) 8:30～10:30

第3会場(大雪・岩木)

コーディネーター兼協力講師

前久保 邦昭 前久保クリニック
島 悟 京都文教大学臨床心理学部

【趣旨・狙い】

2004年に厚労省より「心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援の手引き」が示されたが、今日職場復帰は益々重要で困難な課題になってきている。2008年度は、上記手引きの改訂作業が行われたが、最近の知見を踏まえた論議がなされた。本シンポジウムでは、改訂された手引きを踏まえて、今後の職場復帰支援のあり方を、主治医・産業医・人事労務担当者などの異なった視点から、業種、事業場規模、職種、職位にも関連して、検討する。

「復職手引き」の改訂をめぐって

島 悟 京都文教大学臨床心理学部

職場復帰支援について～精神科医の立場から

前久保 邦昭 前久保クリニック

職場復帰支援について～産業医の立場から

中谷 敦 株式会社日立製作所日立健康管理センタ



職場復帰支援について～人事担当者の立場から

大内 健 ファイザー株式会社ウェルネスセンター

教育セミナー SCIDによる大うつ病性障害診断の実際

7月31日(金) 15:00～16:30

第1会場(富士・伊吹)

オーガナイザー 大野 裕 慶應義塾大学保健管理センター

【趣旨・狙い】

DSM-IVの気分障害、とくにうつ病性障害の概念を理解し、臨床、研究、教育で正確な情報を提供できるように、DSM-IVの診断基準に基づいて作成された半構造化された診断面接であるSCIDの大うつ病性障害のセクションの使用方法を紹介する。演者はすべて、ハーバード大学で行われたSCIDの講習会に参加した精神科医であり、今回はその経験を生かしてロールプレイも交えながら解説を行う。

座長・演者

中川 敦夫 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室
菊地 俊暁 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

演者

佐渡 充洋 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室
藤澤 大介 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

レクチャー

7月31日(金) 15:00～17:30

第2会場(浅間・立山)

自殺予防の基礎知識：自殺のリスク評価と精神療法に焦点を当てて

座長

竹島 正 国立精神・神経センター精神保健研究所

演者

高橋 祥友 防衛医科大学校・防衛医学研究センター・行動科学研究部門

【趣旨・狙い】

第4回の日本うつ病学会総会(札幌)において同様のテーマで発表しましたが、今回はいわば中級編です。自殺予防に医療従事者はどのように対応できるのかという点について今回はもう少し掘り下げていく予定です。実際に臨床で自殺の危険の高い患者さんに向き合っている方々を対象として、お互いに意見を交換できるような場にしたいと考えています。一方性の講義ではなく、ぜひ皆さんの経験も他の参加者と積極的に意見を交換してください。

双極性障害委員会企画シンポジウム 双極性障害への心理・社会的対応

8月1日(土) 9:00～11:10

第4会場(大山)

| | | |
|------------|-------|----------------------|
| オーガナイザー・司会 | 神庭 重信 | 九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野 |
| 司会 | 坂元 薫 | 東京女子医科大学神経精神科 |

【趣旨・狙い】

双極性障害の啓発

うつ病と双極性障害の臨床up-to-date

坂元 薫 東京女子医科大学神経精神科

双極性障害の心理教育と看護

若狭 紅子 横浜市立大学医学部看護学科

公立学校教職員のメンタルヘルスとその支援体制について

溝口 るり子 東京都教職員互助会教職員総合健康センター三楽病院精神神経科

双極Ⅱ型への関わりー職場、家族への援助を含めて

秋山 剛 NTT東日本関東病院精神神経科

河村 代志也 東京大学大学院医学系研究科精神医学教室

酒井 佳永 順天堂大学医学部精神医学教室

職場から見た双極性障害

斎藤 雄介 読売新聞東京本社生活情報部次長

コメディカル委員会企画シンポジウム

8月1日(土) 15:00～17:30

第3会場(大雪・岩木)

うつ病の患者と家族への接し方 ～“うつ”を知る・伝える・語り合う～

| | | |
|---------|--------|------------------|
| オーガナイザー | 森崎 美奈子 | 帝京平成大学大学院健康科学研究科 |
| | 長谷川 雅美 | 金沢大学医薬保健研究域保健学系 |

【趣旨・狙い】

コメディカル委員会では、医療スタッフが関係者と円滑なコミュニケーションを図り、よりよいうつ病の治療を協働できることを目指しています。うつ病患者の症状、思考・行動パターンなどに関する基本的理解を深め、家族や関係スタッフが、患者を支援するときの実践的介入に有用な知識を提供します。

「大」うつ病って何のこと？ーコミュニケーションに活かすための精神科用語

佐野 信也 防衛医科大学校心理学科

臨床場面で実施できる患者や家族への情報提供や対処技能の教育について：心理教育的視点から

下寺 信次 高知大学医学部神経精神科学教室

聞き上手になるコミュニケーションの工夫

沼 初枝 立正大学心理学部



第3回うつ病診療講習会

8月1日(土) 9:00～14:00

第5会場(石鎚)

日本うつ病学会診療教育委員会は、うつ病臨床のボトムアップのために、2007年より講習会を開催しています。今回は、第3回目となりますが、自らの診療技術に自信がない、標準的な診療をまとめて学習したいという医師を対象としています。

定員：30名(事前申込み制、席に余裕がありましたら当日も受付をいたします。)

受講料：12,000円(テキスト・受講修了証・昼食代を含む)

参加資格：日本うつ病学会の会員で、かつ下記のいずれかに該当する方

(対象) 1. プライマリーケア医または内科医など精神科医以外の医師

※うつ病(精神科)診療経験年数は問いません。

2. 精神科の医師[うつ病(精神科)診療経験年数をうかがいます。]

講師：診療教育委員会委員及びうつ病診療のエキスパート

主催：日本うつ病学会 診療教育委員会

目的と形式：

うつ病診療の標準的な治療とは何かを、5時間、少人数でのグループ形式参加型講習会で、学習することを目的としています。症状の評価、的確な診断、患者・家族への説明、治療法の選択と実践、回復・復帰の準備、保健福祉や職場との連携など・・・うつ病診療のポイントやピット・フォールを専門家と一緒に学ぶ機会です。講師は診療教育委員会委員およびうつ病診療のエキスパートが担当します。

講習会の最後に受講修了証を発行します。

日本うつ病学会 診療教育委員会
委員長 平安 良雄

<プログラム予定>

- 9:00- 9:10 イントロダクション：研修方法の概略説明 テーブル(グループ)ごとに自己紹介を行う
- 9:05- 9:15 プリアンケート記載と回収
- 9:15- 9:35 リーディング・レクチャー「うつ病診療での30年間の変化」
- 9:35- 9:40 症例1呈示 ～メランコリー型で多剤併用や仕事を休ませるタイミングなどが間違っている症例～
- 9:40-10:05 グループワーク：問題点抽出
- 10:05-10:15 ポイント解説：症例の問題点を確認、Q&A
- 10:15-10:35 レクチャー「薬物療法の留意点について」
- 10:35-10:50 休憩
- 10:50-10:55 症例2呈示 ～気分変動でずるずる復職しなくて困るケースの生活指導を含めての症例～
- 10:55-11:20 グループワーク：問題点抽出
- 11:20-11:30 ポイント解説：症例の問題点を確認、Q&A
- 11:30-11:50 レクチャー「診断のコツについて」
- 11:50-12:30 昼食と懇談
- 12:30-12:35 症例3呈示～双極性感情障害～
- 12:35-13:00 グループワーク：問題点抽出
- 13:00-13:10 ポイント解説：症例の問題点を確認、Q&A
- 13:10-13:30 レクチャー「自己愛的ケースの扱い方」
- 13:30-13:40 まとめ
- 13:40-14:00 ポストアンケート記載と回収
修了証贈呈

6th JSMD プログラム

ランチョンセミナー1~7
イブニングセミナー
市民公開講座



ランチオンセミナー 1

7月31日(金) 12:00 ~ 13:00

第1会場(富士・伊吹)

Choice of Antidepressant Treatment in Clinical Practice

| | | |
|----|---------------------|---|
| 座長 | 樋口 輝彦 | 国立精神・神経センター |
| 演者 | Madhukar H. Trivedi | Division of Mood Disorders, Department of Psychiatry, University of Texas, Southwestern Medical Center |
| 共催 | ファイザー株式会社 | |

ランチオンセミナー 2

7月31日(金) 12:00 ~ 13:00

第2会場(浅間・立山)

うつ病・自殺の予防におけるプライマリケア医の役割

| | | |
|----|----------------------|----------------------------|
| 座長 | 渡辺 洋一郎 | 社団法人大阪精神科診療所協会・医療法人渡辺クリニック |
| 演者 | 平安 良雄 | 横浜市立大学大学院医学研究科精神医学部門 |
| 共催 | 明治製菓株式会社・アステラス製薬株式会社 | |

ランチオンセミナー 3

7月31日(金) 12:00 ~ 13:00

第3会場(大雪・岩木)

難治性うつ病はなぜ難治なのか？その解決法について

| | | |
|----|------------------|----------------------------|
| 座長 | 切池 信夫 | 大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学 |
| 演者 | 井上 猛 | 北海道大学大学院医学研究科神経病態学講座精神医学分野 |
| 共催 | グラクソ・スミスクライン株式会社 | |

ランチオンセミナー 4

7月31日(金) 12:00 ~ 13:00

第4会場(大山)

うつ病、双極性障害診断における問題点

| | | |
|----|-------------|--------------------|
| 座長 | 寺尾 岳 | 大分大学医学部精神神経医学講座 |
| 演者 | 川崎 弘詔 | 九州大学大学院医学研究院精神病態医学 |
| 共催 | 協和発酵キリン株式会社 | |

ランチオンセミナー 5

8月1日(土) 12:00 ~ 13:00

第1会場(富士・伊吹)

コクランレビューで変わる大うつ病の薬物療法の組み立て方

| | | |
|----|------------------------|---------------------------|
| 座長 | 山脇 成人 | 広島大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経医学 |
| 演者 | 古川 壽亮 | 名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学 |
| 共催 | シエリング・プラウ株式会社／明治製菓株式会社 | |



ランチオンセミナー 6

8月1日(土) 12:00 ~ 13:00

第3会場(大雪・岩木)

うつ病治療とその社会復帰を促すアプローチ

| | | |
|----|--------------------------|----------------------|
| 座長 | 上島 国利 | 国際医療福祉大学医療福祉学部 |
| 演者 | 中尾 睦宏 | 帝京大学医学部衛生学公衆衛生学・心療内科 |
| 共催 | 旭化成ファーマ株式会社／ヤンセンファーマ株式会社 | |

ランチオンセミナー 7

8月1日(土) 12:00 ~ 13:00

第4会場(大山)

SSRI増強療法の効果と薬理 -特にフルボキサミン／タンドスピロン併用療法について-

| | | |
|----|-------------|----------------------------|
| 座長 | 神庭 重信 | 九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野 |
| 演者 | 小山 司 | 北海道大学大学院医学研究科神経病態学講座精神医学分野 |
| 共催 | 大日本住友製薬株式会社 | |

イブニングセミナー

7月31日(金) 17:35 ~ 18:30

第3会場(大雪・岩木)

働く人のうつ病

| | | |
|----|-------------------------|----------------|
| 座長 | 久保 千春 | 九州大学病院 |
| 演者 | 上島 国利 | 国際医療福祉大学医療福祉学部 |
| 共催 | 塩野義製薬株式会社／日本イーライリリー株式会社 | |

市民公開講座

8月1日(土) 18:00～20:00

第1会場(富士・伊吹)

第6回日本うつ病学会市民公開講座／第10回JCPTD市民公開講座

テーマ：うつ病の理解と対応

司 会 久保木 富房 東京大学心療内科名誉教授／医療法人秀峰会楽山病院名誉院長

共 催 日本うつ病学会
JCPTD委員会(一般診療科におけるうつ病の予防と治療のための委員会)
日本イーライリリー株式会社／塩野義製薬株式会社

<プログラム>

挨拶 野村 総一郎 日本うつ病学会理事長／防衛医科大学校精神科学講座

対 談 **うつ病とは**
中尾 睦宏 帝京大学医学部衛生学公衆衛生学・心療内科
吉川 晃司 ミュージシャン・俳優

講 演 **うつってなあに？ ～見かたと考え方～**
坪井 康次 東邦大学心療内科

うつ病の治療について－家族の対応－

丹羽 真一 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

閉会の辞 中根 允文 JCPTD代表世話人／出島診療所・長崎大学名誉教授

入 場 料 無料

定 員 680名

参加希望の方へのご案内

この市民公開講座は一般市民の方を対象しております。

第6回日本うつ病学会総会のプログラムの一つでもあります。一般市民の方の参加を優先いたします。

参加希望者を事前登録にて受け付けましたが、当日席に余裕がありましたら総会参加者で市民公開講座参加を希望する方も受け付けいたします。ご希望の方は当日総合受付にて案内をご確認ください。

6th JSMD プログラム

一般演題（ポスター）



薬物療法

P1-01

嘔気によりSSRI服用困難であったうつ病に対する茯苓飲合半夏厚朴湯の使用経験

奥平 智之^{1,2)}、阿部 又一郎³⁾、長瀬 幸弘⁴⁾、石毛 稔⁵⁾、立石 香織⁶⁾、大賀 健太郎⁷⁾1)山口病院(川越)、2)日本大学医学部内科学系統和漢医薬学分野、
3)国立精神神経センター精神保健研究所、4)たかつき第2クリニック、5)袖ヶ浦さつき台病院、
6)岸病院、7)日本大学医学部付属練馬光が丘病院

P1-02

うつ病寛解後の抗うつ薬の服薬コンプライアンス：血中薬物濃度を指標とした検討

吉村 玲児、杉田 篤子、堀 輝、中野 和歌子、上田 展久、中村 純

産業医科大学医学部精神医学

P1-03

抗うつ薬の使い分けは可能か：SSRIとSNRIの多変量解析による検討

森下 茂^{1,2)}、木下 利彦²⁾

1)十条リハビリテーション病院うつ予防医療センター、2)関西医科大学精神神経科

P1-04

うつ病患者におけるパロキセチンの治療効果と血漿濃度との関係

中神 卓^{1,2)}、古郡 規雄¹⁾、鈴木 昭人³⁾、佐藤 靖^{1,4)}、菅原 典夫^{1,4)}、井上 義政⁴⁾、
大谷 浩一³⁾、兼子 直¹⁾1)弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、2)大館市立総合病院精神科、
3)山形大学医学部発達生体防御学講座発達精神医学分野、4)弘前愛成会病院精神科、
5)MPテクノファーマ

P1-05

うつ病・うつ状態の身体症状に対するミルナシプランの治療効果に関する前向き研究

端詰 勝敬、久我原 明朗、岩崎 愛、佐谷 健一郎、天野 雄一、小田原 幸、井上 直美、
法田 裕美子、稲垣 理沙子、坪井 康次

東邦大学医学部心身医学講座

P1-06

当院における抗うつ薬使用実績からの考察～理想の薬物療法に向けての課題

信田 広晶、平山 愛歌

医療法人社団心癒会しのだの森ホスピタル

P1-07

新規抗うつ薬ミルタザピンのノルアドレナリン・セロトニン遊離量に及ぼす作用

山内 美紀¹⁾、角井 信一¹⁾、今西 泰一郎¹⁾、小山 司²⁾

1)明治製菓株式会社医薬総合研究所応用薬理研究所、2)北海道大学医学部精神医学分野

P1-08

新規抗うつ薬ミルタザピンの成体ラット海馬における神経新生に及ぼす影響

北村 弘一、角井 信一、山下 宣之、今西 泰一郎

明治製菓株式会社医薬総合研究所応用薬理研究所

P1-09

Aripiprazoleの追加投与が有効であった妄想を伴う重症うつ病の1例

岸本 光一、徳山 明広、織部 裕明、大澤 弘吉、澤井 照佳

財団法人信貴山病院ハートランドしぎさん



薬物療法以外の治療法

P2-01

うつ症状と社会適応に関連する心理社会的要因の検討(1)

—集団認知行動療法の効果は復職後も維持されるのか?—

伊藤 大輔¹⁾、田上 明日香¹⁾、大野 真由子¹⁾、瀬戸口 和久²⁾、徳永 まゆ子²⁾、塚 瑞絵²⁾、小野 紘子²⁾、白井 麻理²⁾、嶋田 洋徳³⁾、鈴木 伸一³⁾

1)早稲田大学大学院人間科学研究科、2)小石川メンタルクリニック、3)早稲田大学人間科学学術院

P2-02

うつ症状と社会適応に関連する心理社会的要因の検討(2)

—職場復帰のために必要な支援は何か?—

田上 明日香¹⁾、伊藤 大輔¹⁾、大野 真由子¹⁾、瀬戸口 和久²⁾、徳永 まゆ子²⁾、塚 瑞絵²⁾、小野 紘子²⁾、白井 麻理²⁾、嶋田 洋徳³⁾、鈴木 伸一³⁾

1)早稲田大学大学院人間科学研究科、2)小石川メンタルクリニック、3)早稲田大学人間科学学術院

P2-03

うつ症状と社会適応に関連する心理社会的要因の検討(3)

—社会適応を高めるにはどのような支援が必要か?—

大野 真由子¹⁾、田上 明日香¹⁾、伊藤 大輔¹⁾、瀬戸口 和久²⁾、徳永 まゆ子²⁾、塚 瑞絵²⁾、小野 紘子²⁾、白井 麻理²⁾、嶋田 洋徳³⁾、鈴木 伸一³⁾

1)早稲田大学大学院人間科学研究科、2)小石川メンタルクリニック、3)早稲田大学人間科学学術院

P2-04

女性うつ病患者が集団認知行動療法終了後に継続的に活用している学習内容

—3ヶ月時点の面接データの分析から—

岡田 佳詠¹⁾、中村 聡美²⁾、田島 美幸³⁾、秋山 剛²⁾

1)淑徳大学看護学部、2)NIT東日本関東病院精神神経科、3)慶應義塾大学医学部ストレスマネジメント室

P2-05

ディストラクションが自己注目によるネガティブな認知に対するアクセシビリティの高まり、および抑うつ気分に及ぼす影響

津村 秀樹、嶋田 洋徳

早稲田大学大学院人間科学研究科

P2-06

認知行動療法と作業療法のコラボレーション療法の試み

—ストレス性疾患専門治療デイケア こころの翼での実践—

太田 滋春

医療法人中江病院

P2-07

うつ病治療中に咬合異常感を発症して来院した患者に用いた日記療法

石田 恵

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科頭頸部心身医学分野

P2-08

CERVICAL DEPRESSION—最近 急増している新しい疾患—

松井 孝嘉^{1,2)}、北條 俊太郎¹⁾、作田 学¹⁾、平尾 健一^{1,2)}、松村 香代子²⁾、松井 雅樹²⁾、大平 敏樹^{1,2)}、藤元 登四郎³⁾、岩田 誠¹⁾、佐野 圭司¹⁾

1)東京脳神経センター、2)日本脳神経研究所・松井病院、3)藤元早鈴病院

P2-09

うつ病休職者の職場ストレスに関する認知の質的分析

中村 聡美¹⁾、田島 美幸²⁾、岡田 佳詠³⁾、秋山 剛¹⁾、山岡 由実⁴⁾、谷口 須美恵⁵⁾

- 1) NIT東日本関東病院精神神経科、2) 慶應義塾大学医学部ストレスマネジメント室、3) 筑波大学大学院、
4) 聖路加看護大学大学院看護学研究科博士後期課程、
5) 青山学院大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程

P2-10

児童の集団SSTによる抑うつ低減効果

石川 信一¹⁾、松原 耕平¹⁾、武田 圭¹⁾、山下 文大¹⁾、岩永 三智子²⁾、佐藤 正二¹⁾

- 1) 宮崎大学教育文化学部、2) 都城市立明和小学校

P2-11

自閉症スペクトラム障害に共存した非定型うつ病の治療

大賀 健太郎¹⁾、阿部 又一郎²⁾、石川 由美子¹⁾、鈴木 康弘¹⁾、奥平 智之³⁾、米谷 しのぶ⁴⁾、
古川 陽子⁴⁾、植木 浩子⁵⁾、柏瀬 宏隆⁵⁾、内山 真¹⁾

- 1) 日本大学医学部精神医学系精神医学分野、2) 国立精神・神経センター精神保健研究所精神生理部、
3) 日本大学医学部内科学系統合和漢医薬学分野、4) あではで神奈川心理相談部、
5) 医療法人十字会松見病院

P2-12

休養中のうつ病患者に対する集団療法について
～健康教室・フォローアップ・グループの意義～

広瀬 夕子、袖本 礼子、長野 麻美、島田 涼子、古荘 智子、新倉 佳久子、波多野 美佳、
村林 信行
心療内科アーツクリニック大崎

P2-13

うつ病セルフヘルプグループにおける治療的効果

大江 真人

- 金沢大学医学系研究科保健学専攻博士前期課程

病態・症状・診断・評価

P3-01

口腔心身症におけるうつ状態とその関連要因について

中野 良信

- 市立枚方市民病院歯科口腔外科

P3-02

舌痛症患者における心理ストレスの検討

小池 一喜^{1,2)}、村上 正人³⁾

- 1) 日本大学歯学部付属歯科病院心療歯科、2) 日本大学歯学部口腔診断学講座、
3) 日本大学板橋病院心療内科

P3-03

不眠が抑うつ症状に及ぼす影響－地域住民を対象とした縦断的検討－

岡島 義¹⁾、駒田 陽子²⁾、野村 哲志³⁾、井上 雄一^{1,2)}

- 1) 財団法人神経研究所附属睡眠学センター、2) 東京医科大学睡眠学講座、
3) 鳥取大学医学部脳神経内科部門



P3-04

心理学を応用した職場復帰プログラムと、前頭前野脳波のスペクトル分析

清水 隆司

順天堂大学医学部公衆衛生学

P3-05

うつ病における認知機能と機能的転帰に関する縦断的検討

兼田 康宏

岩城クリニック心療内科

P3-06

損害回避のパーソナリティはインターフェロンうつ病の危険因子かもしれない

鈴木 映二¹⁾、吉田 芳子²⁾、渋谷 明隆³⁾、山岸 美華³⁾、大野 裕⁴⁾、吉村 公雄⁶⁾、渡辺 滋⁷⁾、
宮岡 等²⁾

1)国際医療福祉大学熱海病院、2)北里大学医学部精神科学、3)北里大学医学部消化器内科、

4)北里大学東病院リハ社会医療部、5)慶應義塾大学保健管理センター、

6)慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室、7)北里大学東生物物理系

P3-07

アルツハイマー病、軽度認知障害(MCI)に伴ううつ状態の心理特性

服部 英幸、吉山 顕次、三浦 利奈、藤江 祥子

国立長寿医療センター行動・心理療法科

P3-08

入院を要しためまい患者の抑うつ、不安とめまい以外の身体症状について

五島 史行¹⁾、新井 基洋²⁾

1)日野市立病院耳鼻咽喉科、2)横浜みなと赤十字病院耳鼻咽喉科

P3-09

うつ病の遂行機能低下を予測する因子は？ : JUMP

中野 祥行^{1,2)}、馬場 元^{1,2)}、前嶋 仁^{1,2)}、里村 恵美²⁾、喜多 洋平²⁾、酒井 佳永^{1,2)}、
小澤 和弘¹⁾、鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊²⁾

1)順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院、2)順天堂大学医学部精神医学講座

P3-10

うつ病におけるNatural Killer細胞と臨床症状の関連 : JUMP

里村 恵美¹⁾、馬場 元^{1,2)}、前嶋 仁^{1,2)}、中野 祥行^{1,2)}、鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊¹⁾

1)順天堂大学医学部精神医学講座、2)順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院

P3-11

うつ病患者末梢血中におけるアミロイドβ蛋白濃度 : JUMP

喜多 洋平¹⁾、馬場 元^{1,2)}、前嶋 仁^{1,2)}、中野 祥行^{1,2)}、鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊¹⁾

1)順天堂大学医学部精神医学講座、2)順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院

P3-12

女性うつ病患者における血漿中DHEA-sの診断的意義 : JUMP

木田 涼¹⁾、馬場 元^{1,2)}、前嶋 仁^{1,2)}、中野 祥行^{1,2)}、酒井 佳永^{1,2)}、鈴木 利人^{1,2)}、
新井 平伊²⁾

1)順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院、2)順天堂大学医学部精神医学講座

P3-13

寛解期うつ病患者の記憶機能Juntendo University Mood disorder Project : JUMP

前嶋 仁、馬場 元、中野 祥行、喜多 洋平、小澤 和弘、酒井 佳永、鈴木 利人、
新井 平伊

順天堂大学医学部精神医学教室

P3-14

寛解したうつ病の遂行機能と認知機能**～服薬中の患者と服薬終了した患者の比較；JUMP～**

長根 亜紀子^{1,3)}、馬場 元^{1,2)}、前嶋 仁^{1,2)}、中野 祥行^{1,2)}、喜多 洋平¹⁾、小澤 和弘^{1,2)}、
酒井 佳永^{1,2)}、深津 真奈⁴⁾、鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊¹⁾

1) 順天堂大学医学部精神医学講座、2) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院、
3) 医療法人社団俊睿会南埼玉病院、4) 医療法人社団俊睿会いずみクリニック

P3-15

非定型うつ病のcomorbidity

正木 美奈¹⁾、貝谷 久宣^{1,2)}、井上 顕^{1,3)}、宇佐美 英里²⁾

1) 医療法人和楽会なごやメンタルクリニック、2) 医療法人和楽会赤坂クリニック心療内科・精神科、
3) 藤田保健衛生大学医学部公衆衛生学

P3-16

気分障害脳特異的な脂肪酸異常

楯林 義孝、菊池 尚美、篠崎 たき子
東京都精神医学総合研究所

P3-17

血漿のノルアドレナリン代謝産物MHPGと脳由来神経栄養因子がうつ症状と躁症状に有意な相関を示した双極性感情障害の1症例

栗田 征武^{1,2)}、西野 敏^{1,2)}、加藤 舞子¹⁾、沼田 由紀夫¹⁾、佐藤 忠宏¹⁾、中畑 則道²⁾

1) 公徳会佐藤病院、2) 東北大学大学院薬学研究科細胞情報薬学分野

P3-18

うつ病・うつ状態の身体症状に関する調査

久我原 明朗、端詰 勝敬、岩崎 愛、佐谷 健一郎、天野 雄一、小田原 幸、井上 直美、
法田 祐美子、稲垣 理沙子、坪井 康次
東邦大学医学部心身医学講座

P3-19

うつ病の身体症状としてのめまいと抗うつ薬の効くめまい

五島 史行¹⁾、中井 貴美子²⁾、三村 將³⁾

1) 日野市立病院耳鼻咽喉科、2) 慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科、3) 昭和大学医学部精神医学教室

P3-20

休業経験のあるうつ病就労者の縦断的研究**－半年後の復職を予測する心理社会的因子**

小川 哲男、重村 淳、吉野 相英、野村 総一郎
防衛医科大学校精神科学講座

P3-21

抑うつ症状を伴う者の認知的要因と行動的要因の関連性**～縦断的調査による検討～**

高垣 耕企¹⁾、岡島 義²⁾、坂野 雄二³⁾

1) 北海道医療大学大学院心理科学研究科、2) 財団法人神経研究所附属睡眠学センター、
3) 北海道医療大学心理学部

P3-22

Cotard症候群を繰り返した退行期うつ病の一例**－気分障害に重畳したまれな病態の多面的理解をめざして－**

田中 伸一郎、石井 久史、長谷川 崇、古賀 良彦
杏林大学医学部精神神経科学教室



P3-23

**Capgras症候群を呈した双極性障害の一例
— 気分障害に重畳したまれな病態の多面的理解をめざして —**
田中 伸一郎、品川 麻由子、古賀 良彦
杏林大学医学部精神神経科学教室

P3-24

不安障害の重複と大うつ病の併発が不安症状に及ぼす影響
宮崎 誠樹、吉野 相英、野村 総一郎
防衛医科大学校病院精神科学講座

P3-25

線維筋痛症患者における抑うつ・不安症状が痛みに及ぼす影響
金 外淑¹⁾、村上 正人²⁾、松野 俊夫²⁾、川原 律子²⁾、青木 絢子²⁾
1) 兵庫県立大学看護学部心理学系、2) 日本大学板橋病院心療内科

P3-26

**情動処理と関連する脳機能と認知行動療法の影響について
— うつ病患者を対象にしたfMRI研究 —**
吉村 晋平¹⁾、岡本 泰昌¹⁾、小野田 慶一¹⁾、松永 美希¹⁾、国里 愛彦¹⁾、上田 一貴²⁾、
鈴木 伸一³⁾、山脇 成人¹⁾
1) 広島大学大学院医歯薬学総合研究科創生医科学専攻、2) 東京大学先端科学技術研究センター、
3) 早稲田大学人間科学学術院

P3-27

気分障害に合併したOSASのスクリーニングと、OSAS治療によるうつ症状の改善の検討
北島 剛司¹⁾、服部 美穂²⁾、目片 隆宏¹⁾、富田 悟江³⁾、岩田 仲生¹⁾、岡田 保⁴⁾、粥川 裕平⁵⁾
1) 藤田保健衛生大学精神医学教室、2) 桶狭間こころケアセンター、3) 刈谷病院、4) 岡田クリニック、
5) 名古屋工業大学保健センター

ライフサイクルとうつ病

P4-01

子どもの食べ物の嗜好と抑うつの関連性の検討
松本 佳奈¹⁾、花田 裕子²⁾、真倉 愛⁴⁾、小澤 寛樹²⁾、永江 誠治²⁾、本田 純久³⁾
1) 三和中央病院、2) 長崎大学大学院医歯薬学研究科、3) 長崎大学熱帯医学研究所、4) 駒木野病院

P4-02

子どもの抑うつに関連するライフスタイルと食事の嗜好
真倉 愛¹⁾、花田 裕子²⁾、松本 佳奈⁴⁾、永江 誠治²⁾、小澤 寛樹²⁾、本田 純久³⁾
1) 青溪会駒木野病院、2) 長崎大学大学院医歯薬学研究科、3) 長崎大学熱帯医学研究所、
4) 三和中央病院

P4-03

軽度抑うつ状態を呈した思春期男子に対しての男性看護師の役割
永江 誠治、花田 裕子、小澤 寛樹
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

P4-04

妊娠期の抑うつ状態に影響する要因の検討
新井 陽子
北里大学看護学部

P4-05

うつ病寛解後の社会機能を予測する要因；JUMP

酒井 佳永^{1,2)}、馬場 元^{1,2)}、鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊¹⁾

1) 順天堂大学医学部精神医学教室、2) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院

P4-06

初老期に初回の感情障害の病相を呈した感情障害の3症例

田端 一基

医療法人社団旭川圭泉会病院

P4-07

高齢者における小うつ病性障害の罹病期間

長谷川 千絵¹⁾、石島 英樹²⁾、飯田 浩毅³⁾、鈴木 友理子⁴⁾、田中 克俊⁵⁾、吉田 英世⁶⁾、
鈴木 隆雄⁶⁾、井原 一成¹⁾

1) 東邦大学医学部社会医学講座公衆衛生学分野、2) 埼玉医科大学公衆衛生学講座、
3) NTT東日本伊豆病院、4) 国立・精神神経センター成人精神保健部、
5) 北里大学大学院医療系研究科産業精神保健学、6) 東京都老人総合研究所

P4-08

特定高齢者および要支援者における抑うつ症状の改善に寄与する要因の分析

田島 美幸¹⁾、田村 法子²⁾、藤澤 大介³⁾、大野 裕⁴⁾

1) 慶應義塾大学医学部ストレス・マネジメント室、2) 秋葉原ガーデンクリニック、
3) 慶應義塾大学医学部精神神経科、4) 慶應義塾大学保健管理センター

家族への支援/自殺予防

P5-01

高齢遺族の抑うつと不健康・悲嘆との関連について：成人遺族との比較から

宮林 幸江¹⁾、安田 仁²⁾

1) 公立宮城大学、2) 元福島大学教育学研究科

P5-02

うつ病患者をもつ家族の心理構造

田中 浩二、河村 一海、長谷川 雅美

金沢大学医薬保健研究域保健学系

P5-03

癌患者遺族の遷延する抑うつ状態への対応

癌における患者、およびその家族、遺族への精神的緩和ケアの重要性

高柳 英夫

NTT東日本札幌病院精神科

P5-04

安全保障プラン(タイダルモデル)を用いた、自傷・自殺防止の取り組み

大木 千春¹⁾、秋山 剛²⁾、西村 理香¹⁾、木村 沙織¹⁾

1) NTT東日本関東病院看護部、2) NTT東日本関東病院精神神経科

P5-05

**希死念慮を表明する患者に対する自殺危険性の評価とその対応について
—当院リエゾン活動より—**

羽多野 裕、木下 清二郎、戸川 啓史、正木 大貴、土田 英人、福居 顯二

京都府立医科大学附属病院精神神経科



P5-06

精神科医を対象とした自殺に関するアンケート調査

小原 美樹¹⁾、島 悟^{1,2)}、高野 知樹¹⁾、吉村 靖司¹⁾

1) 神田東クリニック、2) 京都文教大学臨床心理学部

産業メンタルヘルス

P6-01

職場のうつ病発症には飲酒と若年齢が関連している：

Case-controlおよびcohort研究から

小笠原 一能^{1,2)}、中村 由嘉子²⁾、吉田 契造³⁾、安藤 勝久⁴⁾、岩田 仲生⁵⁾、粥川 裕平⁶⁾、
尾崎 紀夫²⁾

1) 医療法人亀廣記念医学会関西記念病院心療内科・精神科、
2) 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野、3) 株式会社デンソー健康推進部、
4) 特定医療法人共和会共和病院、5) 藤田保健衛生大学医学部精神医学教室、
6) 名古屋工業大学保健センター

P6-02

日本人男性におけるうつ病とメタボリックシンドロームの関連： 前向きコホート研究の結果より

竹内 武昭、中尾 睦宏

帝京大学医学部衛生学公衆衛生学・心療内科

P6-03

医療機関におけるリワーク(復職支援)プログラムの調査から ーリワーク専門機関と非専門機関の違いに着目してー

鳴海 孝幸^{1,2)}、五十嵐 良雄^{1,2)}、福島 南^{1,2,3)}

1) 医療法人社団雄仁会メディカルケア虎ノ門、2) うつ病リワーク研究会、
3) 帝京平成大学大学院健康科学研究科臨床心理学専攻

P6-04

メンタルヘルス問題による休職者の復職が成功するための重要因子： アンケート調査

原口 正¹⁾、山内 直人²⁾、菊池 周一³⁾、矢田 洋三³⁾、志津 雄一郎⁴⁾、伊豫 雅臣¹⁾、
清水 栄司⁵⁾

1) 千葉大学大学院医学研究院精神医学、2) 八千代病院、3) 袖ヶ浦さつき台病院、4) 志津クリニック、
5) 千葉大学大学院医学研究院神経情報統合生理学

P6-05

うつ病からの復職にはどのような支援が有効か？

ー復職者へのアンケート調査からー

塩崎 一昌、池田 英二、池田 東香、平安 良雄

横浜市立大学医学部精神医学

P6-06

うつ病休職者の認知的反芻への介入と抑うつ・不安との関連

ー復職支援における問題アセスメントプログラムー

山本 貢司¹⁾、松村 英哉¹⁾、横田 安奈¹⁾、小関 奈々子¹⁾、後藤 健一¹⁾、三木 和平²⁾

1) 横浜ストレスケアクリニック、2) 三木メンタルクリニック

P6-07

公務員における復職後の再休職予測因子に関する検討

池田 英二、塩崎 一昌、池田 東香、平安 良雄

横浜市立大学医学部精神医学

P6-08

メンタル疾患に関する休職・復職制度導入による復職支援の効果 —あるIT企業の取り組み

中田 貴晃¹⁾、隅谷 理子^{1,2)}、綾 千晶¹⁾、大西 守³⁾

1)株式会社アドバンテッジリスクマネジメント、2)上智大学大学院総合人間科学研究科、
3)社団法人日本精神保健福祉連盟

P6-09

公務員における復職後の軽業期間による職場環境に関する意識の変化

池田 東香、池田 英二、塩崎 一昌、平安 良雄
横浜市立大学医学部精神医学教室

P6-10

メンタル疾患に関する休職・復職制度について—類型別事例検討

隅谷 理子^{1,2)}、綾 千晶¹⁾、中田 貴晃¹⁾、大西 守³⁾

1)株式会社アドバンテッジリスクマネジメント、2)上智大学大学院総合人間科学研究科、
3)社団法人日本精神保健福祉連盟

P6-11

うつ病からの社会復帰—東京都精神障害者社会適応訓練事業5年間から—

小池 梨花¹⁾、川関 和俊²⁾、竹内 香³⁾

1)東京都江東区城東保健相談所、2)東京都中部総合精神保健福祉センター、3)東京都福祉保健局障害者施策推進部自立生活支援課就労促進担当

症例検討

P7-01

治療抵抗性の大うつ病性障害患者に対して、睡眠時無呼吸症候群の治療が 著効した1症例

鈴木 竜世、藤田 潔、東城 めぐみ、中村 恵美
桶狭間病院藤田こころケアセンター精神科

P7-02

うつ病患者の不妊治療をカウンセリングで支え続けた一例

渡辺 みはる
諏訪マタニティークリニック

P7-03

自宅の新築が軽快の契機となったうつ病の1例 —中年男性の自我同一性危機からの回復—

岩橋 成寿、國井 啓子
総合磐城共立病院心療内科

P7-04

リワークプログラムとフォローアッププログラムを導入し、予後 (再休職までの期間)が改善された休職を繰り返すうつ病の1症例

有馬 秀晃^{1,2)}、石川 千佳子¹⁾、孫田 未生¹⁾
1)品川駅前メンタルクリニック、2)東京大学医学部精神保健学分野

P7-05

心療内科病院における軽症うつ病の治療と今後の課題

大塚 明子¹⁾、日下 朗¹⁾、久保木 富房^{1,2)}
1)秀峰会心療内科病院楽山、2)東京大学